

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 芝浦二丁目保育園
施設所在地	東京都港区芝浦2-9-1 プランズタワー芝浦2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動・楽しく体を動かそう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子ども達は体を動かすことを好み、日頃から長い廊下を活用したり、そこにあるボルダリングや折りたたみ式の鉄棒等を用いて活動しております。

より良い環境の中で体を動かすことを子ども達と一緒に工夫し探っていきたいと考えております。

## 2. 活動スケジュール

7月～8月：速く「走る」ためにはどうしたらいいのか、という子ども達の疑問から動画を活用したり、実際に体を動かしたりして体の動かし方を学ぶ。

8月29日：講師の方に来ていただき助言をもらいながら「走る楽しさ」や「体を動かす楽しさ」を知る。その中で「体を動かすって他にもどのようなことがあるのかな」と興味が広がっている様子が見られた。

9月：話し合いの時間を設けてその他のように体を動かせるか皆で意見を出し合う。「跳ぶ」「転がる」「くぐる」「ぶら下がる」など様々な意見が出た為どのような遊びが繋がっているかを考える。

10月：グループに分かれてそれぞれ縄跳びやマット・ネットを用いたトンネルくぐり、橋渡り、鉄棒、竹馬などの練習する。難しい点は皆で意見を出し合い上達のコツを考える。

10月14日：講師の方に来ていただき「体を動かす楽しさ」を教えてもらうと共に「友達とわいわい行う楽しさ」も学ぶ。学んだことを活かしスタッフで話し合いを行い、環境構成を見直す。

10月～11月：皆で一緒に行える運動遊びとしてアンプを用いてリズム体操やパラバルーン、リレーなども実施。思い切り体を動かせるよう17日、20日埠頭少年野球場をお借りし活動。

12月16日：講師の方に来ていただき「体を動かす楽しさ」を学ぶ。その中で縄跳びが上手く跳べない児について相談し、縄跳びの導入方法について教えてもらう。助言を受けて、園での活動について話し合いの機会を設ける。保育者が縄跳びの指導について悩んでいた為導入方法など新しい視点で取り組むことができ、保育者にとっても積極的に取り入れられるきっかけとなる。

12月～1月：寒さに負けない体作りとして縄跳びを実施。上手く跳ぶためにどうしたらいいのか、という児の疑問から動画を撮影したり、ポイントを考えたりする。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

室内：粗大運動を行えるスペースを用意し、新規で購入したマット等を常に出しておくよう環境を変更した。いつでも体を動かせる為静と動の活動が保育中にうまれメリハリができるようになった。

保育室の広さに限りがある為廊下も活用。平均台を購入し設置したり竹馬や巧技台のゆらゆらさんぼ等遊べるスペースを用意。

講師の方をお招きし、器具を用いた運動遊びについて実践し、そこから自分達でどう発展させるか話し合いの機会を設けたり動画を活用して学んだりする。

戸外：園庭はないため、活動に合わせて実施ができる散歩先を子ども達と考え設定した。

子ども達の思い切り体を動かしたいという意見から埠頭少年野球場もお借りする。

広い環境では活発に体を動かし様々な遊びへと発展し、運動能力の向上にもつなげる。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- 1：速く走る為の情報収集：子どもたちの「速く走りたい」という気持ちを汲み、保育者間でそれを実現するためにどうするか動画の活用や話し合いの機会を設ける
- 2：講師による助言、実践：「走ること」は個人で活動するという考えをもっていたが講師の助言によりみんなで運動すると楽しいという思いに気付くりレーや集団での運動活動など発展するきっかけとなった
- 3：運動遊びへと発展：意見交換の実施  
子どもの変化を観察及び達成感へと繋げる  
児達の「たのしそう」「やってみたい」という気持ちを大切に環境の見直しを図る
- 4：共感遊び：他児とわいわい行う中での児の成長を観察  
楽しく体を動かすことを探求  
その中で運動と共感は別物であると思っていたが、考えが誤っていたことに気付く  
運動に対する保育者の視野や視点も広がっていき、「一緒に運動をすると楽しい」と保育者・子ども達の意識も変わる
- 5：振り返り 楽しく体を動かすためには、皆でわいわい体を動かすためにはどう環境を工夫していくか振り返りを実施  
ドキュメンテーションを用いて保護者にも発信していき、子ども達の成長をお伝えしたり、家での様子を伺ったりしながら成長の喜びを共有する機会にする

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

走ることが好きで、かけっこ等を楽しんでいたが、他園の園児とリレーをする機会があり、そこで負けてしまい悔しい経験をしていた。どうしたら速く走れるのかを皆で研究したり、足の上げ方や腕の振り方等を考える。講師の助言もいただきながら体を動かすことの楽しさを感じている姿が見られた。そこから「体を動かすって他には何があるか」「どのような遊びでできるのか」などへと発展した。竹馬や縄跳びなど初めは「できない」と諦めかけていた児もいたものの練習を重ね、皆で考えることで少しずつ上達していく姿が見られ、保育者と成長を喜びながら達成感を味わい自信へとつなげていた。

その様子を見ていた他児も「ぼくもやってみる！」と意欲を見せていた。

その後は皆でわいわい行う運動へと繋がり、共感遊びを楽しめるようにリズム遊び等を行う。

また児達は体を動かすこと好んではいたものの、保育者は保育室の限られた環境を上手く使うことができていなかった。今回環境の見直しを行う機会を設け、室内でも常時体を動かせるよう環境を整え、遊び方やルールも皆で考えるようにした。

日常的に体を動かす機会を設けたことで体を動かすことへの意欲も見られた他転倒時手をつけない児も多かったが、つけるようになる等運動機能の向上も見られ、保育者としても安心して運動遊びの提供ができるようになってきた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動前も体を動かすことを好んでいる児が多かったが、保育室内の限られた環境でこれ以上の活動は難しいと諦めていた部分もあり今回の子ども達の姿や講師の助言により環境構成の工夫に繋げることができた。

子ども達の「たのしい」「もっとやってみたい」という思いを引き出せることができたので主体性にも繋がったと感じる。子どもの様子を適宜振り返り、皆で意見を言い合う場を設けたため園全体としてより良い環境作りをすることができた。

様々な体を動かす機会を作る中で、子ども達が体に力が入りすぎてしまうことで上手くできないこともあった。(竹馬や縄跳び等)友達との共感遊びを経験していくことで少しずつ体や心の力みが取れていくことを感じたので活動にも取り入れ、皆でわいわい楽しむ経験を増やせるようにした。幼児クラスでは児同士でもアドバイスをし合う場面も見られたので自分がどのような姿になりたいかをイメージしながらどうしたら上手くできるかを引き続き探求して行って欲しい。またこの活動を行う中で話し合いの機会を多く取り入れたので、自分の意見を伝えることや相手の意見を聞くことを多く経験することができたと感じ、今後の人間関係やクラス作りにおいても良い働きになった。わいわい意見を交換することで運動だけでなく他の活動においても展開をさせていきたい。